



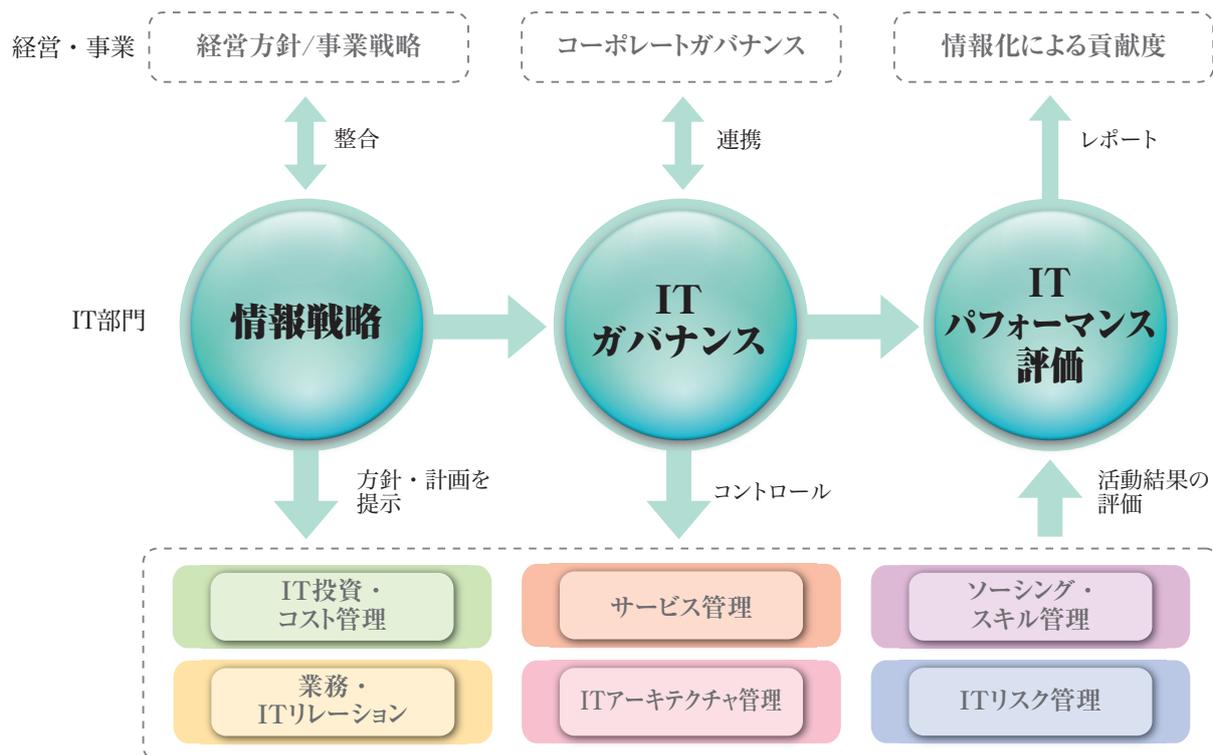
IT Strategy

情報戦略・ITガバナンス

IT Strategyでは、経営方針や事業戦略と整合した情報戦略の策定から、情報戦略を推進していくためのITガバナンスなど、主に企業経営とITとを結ぶ手法やノウハウを提供します。

これら手法・ノウハウを活用することで、経営や事業と整合した情報化運営を、グローバルを含めた企業グループ全体で実現するとともに、情報化運営の状況や課題、経営・事業に対する価値貢献を、経営に対して分かりやすく説明することが可能となります。

IT Strategyは、情報戦略、ITガバナンス、ITパフォーマンス評価の3つのメソッドロジから構成されています。



情報戦略

本メソッドでは、経営方針や事業戦略、将来的な情報技術やITサービスの動向などを踏まえ、トップダウンで情報戦略を策定する手法を提供します。具体的には、経営方針や事業戦略を分析し、情報システムの変革が求められる重点領域をITポートフォリオとして整理します。これを基に、情報システムの将来像をグランドデザインするとともに、実施優先度等を考慮した上で、中長期的な変革シナリオをITロードマップとして取り纏めます。こうして作成した情報戦略を、事業側と共有することで、事業の変革と情報システムの変革とを連動させながら、計画的に推進することが可能となります。

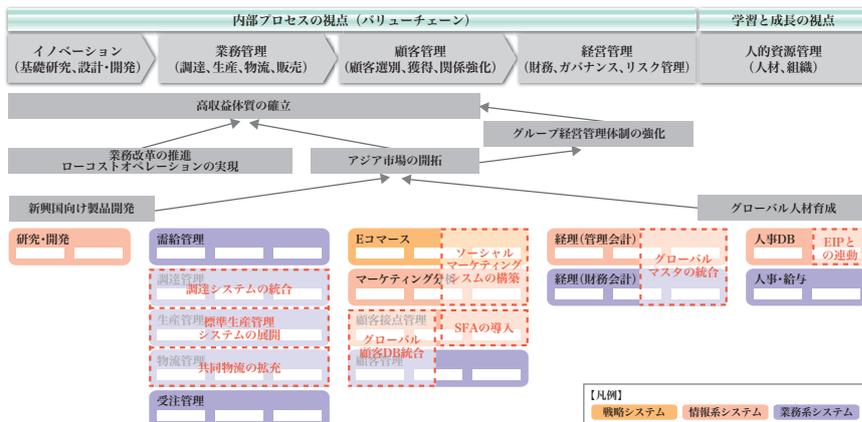
利点・期待効果

- 今後の事業環境や技術環境の変化を踏まえ、それに適合した情報システムの変革の方向性を、明確にすることができます。
- 情報化の重点領域を明確にすることで、情報投資の優先度や順番性を、明確にすることができます。
- 今後の情報化の方向性や制約事項等を、経営や事業部門長に、分かりやすく説明できるようになります。

(活用する代表的な手法)

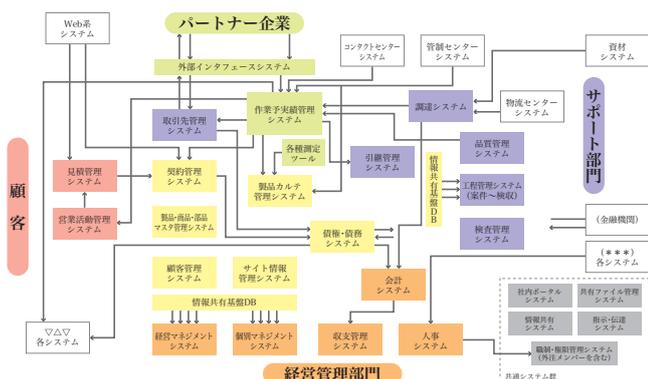
ITポートフォリオ

経営方針や事業戦略、重点的な経営・事業課題、現状の情報システムを紐付けて整理し、今後の情報化の重点領域を抽出する手法



グランドデザイン

情報化の重点領域を、システム領域毎の具体的な施策に展開し、今後のあるべき姿 (To-Be像) を整理するテンプレート



ITロードマップ

施策の優先度や順番性、期限等を踏まえ、各施策を5カ年程度のロードマップとして整理するテンプレート

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
外部環境					
内部環境					
販社システムの統合					
物流システムの再構築					
業界プラットフォーム対応					
経営情報システムの構築					
グローバル需給調整システム					
海外標準システム					
オフィス環境のSaaS移行					
DR対応/2センター化					
グローバルIT運営体制確立					

ITガバナンス

本メソッドロジでは、情報戦略を企業内、又はグループ・グローバル規模で推進していくためのITガバナンスの仕組みを提供します。具体的には、情報化運営に関わるITガバナンス領域を、情報戦略、カネ、モノ、ヒト、リスクの5つに分類し、領域毎に推奨される統制レベルと具体的なITガバナンス施策等を提供します。ITガバナンスは、企業の組織形態や企業統治スタイル（コーポレートガバナンス）を踏まえて設計を行うことが肝要です。本メソッドロジを活用することで、集中IT組織や連邦型IT組織、グローバルヘッドクォーター（GHQ）とリージョナルヘッドクォーター（RHQ）といった、水平・垂直での機能や責任・権限の集中・分散を考慮した、最適なITガバナンスを設計・推進することが可能となります。

利点・期待効果

- 自社に適したITガバナンス方針、及び具体的な施策が明確になります。
- 各組織の責任・権限が明確となり、情報戦略を推進する態勢を確立することができます。
- 国内グループ会社、海外グループ会社を含めた、IT組織間の連携を強化することができます。

(活用する代表的な手法)

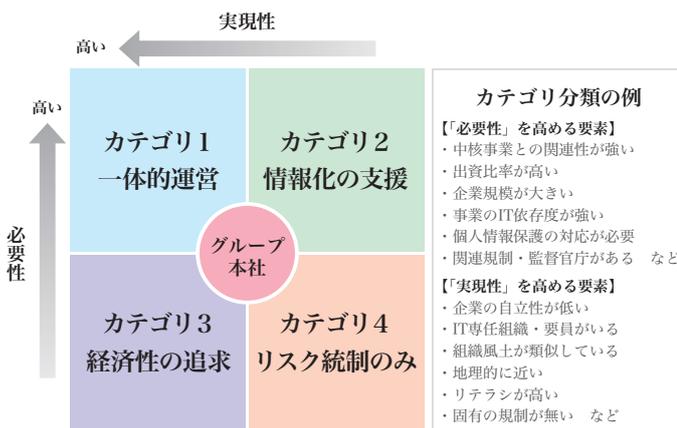
ITガバナンス体系と施策集

情報戦略、カネ、モノ、ヒト、リスクの5つのITガバナンス管理領域毎に、具体的なITガバナンスの強化策を取り纏めた施策集

IT マネジメント対象領域		施策集	
IT マネジメント体制	機能配置	グループ企業間のレポートラインの整理、情報子会社の位置付けの明確化	
	会議体運営	グループ全体でのIT部門会議体の設置と運営	
情報化戦略		グループ経営戦略に基づく、グループ全体でのIT戦略・中期計画の立案 システムの共通化・標準化などの施策の立案	
カネ	IT 予算・IT コスト	予算編成	グループ全体でのIT予算統制と把握
		投資管理	グループ本社による投資決裁、重複投資案件の調整
		コスト管理	グループ全体でのコスト低減活動の推進、定期コスト評価の実施
モノ	IT アーキテクチャー	基盤標準	ネットワーク・メールなどの共通基盤の整備、共通・標準システムの整備・展開
		採用製品・技術管理	標準技術・製品の選定とガイドライン整備と遵守指導
	IT プロジェクト・品質	プロジェクト評価	プロジェクト評価ガイドラインの整備・提供、プロジェクトアセスメント支援
		生産性・品質管理	生産性・品質向上ノウハウのグループ展開、生産性・品質指標値の収集と共有
IT 開発支援	開発手法標準	標準開発手法の整備、ガイドライン提供と遵守指導	
	ノウハウ共有	定期情報交換会の設定、情報共有HP等の設置、人の派遣・出向	
対外管理	ベンダー管理	利用ベンダーの可視化、標準システム導入に伴うベンダー統制	
	調達基準	調達基準の整備・遵守指導、グループ全体での集中購買	
ヒト	IT 人材マネジメント	人材管理	グループに散在するIT人材の可視化（IT人材管理DB）
		人材育成	グループ間でのIT人材交流、IT人材の育成体系整備
リスク	IT リスクマネジメント	ポリシー、ガイドライン	セキュリティポリシー、ガイドラインの整備・遵守指導
		内部監査	システム監査方針・項目の明確化、監査結果の把握・改善指導
		災害対策	災害時復旧計画、体制の整備・遵守指導

グループ会社に対するITガバナンスポリシー設定手法

グループ会社を複数のカテゴリに分類し、各カテゴリの企業に対するITガバナンスポリシーを設定する手法



	グループ本社	カテゴリ1	カテゴリ2	カテゴリ3	カテゴリ4
情報化戦略	グループ本社がグループ情報戦略を策定	共通方針		個別	個別
カネ	グループ本社にてIT投資・IT資産を一元管理 各社へはサービス利用料として課金	基準統一・定期報告		個別	個別
モノ	グループ本社にて標準アーキテクチャを整備 プロジェクトも一元的に管理	共通方針・定期報告		個別	個別
ヒト	組織を一体化	OFF-JTプログラムの共通化		個別	個別
リスク	グループ共通情報セキュリティ方針・ガイドライン				
	グループ本社による定期監査	個別	個別	個別	個別

ITパフォーマンス評価

本メソッドでは、情報部門・情報システム資産の企業経営に対する価値貢献を評価する手法を提供します。具体的には、バランスド・スコア・カードの考え方を適用し、情報部門・情報システム資産の価値を多角的に評価するIT戦略マップや、評価に用いる代表的なパフォーマンス指標（KPI）を提供します。これら評価結果と他の情報化運営の状況とをあわせてIT白書に取り纏め、定期的に経営報告することで、経営者のITに対する理解を高めることが可能となります。

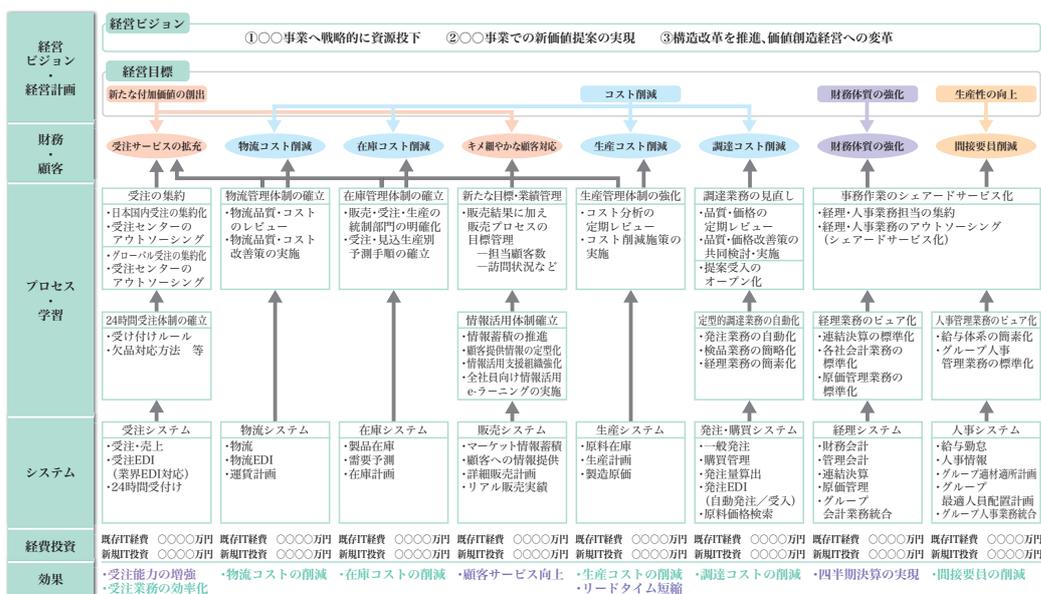
利点・期待効果

- 情報部門・情報システム資産が、経営・事業にどう価値貢献をしているかを可視化することができます。
- 情報部門の重点活動領域、及び定量的な目標値を明確にでき、継続的な改善が可能となります。
- 経営者や事業部門とのコミュニケーションツールとして活用することができます。

(活用する代表的な手法)

IT戦略マップ

バランスド・スコア・カードの考え方にに基づき、情報部門・情報資産のパフォーマンスを評価する手法と代表的な評価指標（KPI）



IT白書 (目次案)

- はじめに／位置づけ／目的
- 主なトピック
 - 外部環境 (IT、関連法制度、消費、等) 変化に見られる特徴
 - 社内環境変化に見られる特徴 等
- IT部門の実施施策
 - IT部門の活動状況
- システム整備の状況
 - 情報システムの現状
 - 情報システムの稼働状況
- IT投資・コストの状況
 - 情報システム関連費用の状況
 - 主要費目毎の合計金額の推移、主要システム毎の費用の推移 等
- IT運営の体制
 - システム部門の組織図、システム子会社／協力会社の体制図 等
 - 自社要員・他社要員数と要員数の変化 等
- ITマネジメントの状況
 - 各種ルールや手順整備への取組み状況 等
- IT人材育成の状況
 - 教育活動の現状
 - システム利用の現状
- その他特記事項
 - セキュリティの状況
 - 内部統制の状況 等

IT白書

情報部門の運営状況や情報システム資産の状況を可視化し、経営者や事業部門にも分かりやすく説明する手法